

編集後記

Editor's Note

堺市のバルーン——地上100mから、仁徳天皇陵古墳を見る

2019年に、世界文化遺産に登録された、大阪府堺市、羽曳野市、藤井寺市の「^もず^{ふるいち} 百舌鳥・古市古墳群」。4世紀から5世紀後半にかけて築造されたもので、かつては、100基以上の古墳があったが、都市化等により消滅し、現在計89基が残る。そのうちの49基が、世界遺産に認定されている。

中でも、堺市・百舌鳥エリアの「仁徳天皇陵古墳」は、墳丘長486m、全長840m、周囲2.85km。その築造には、16年の歳月をかけたと推定されている。クフ王のピラミッド、秦始皇帝陵とともに、「世界三大墳墓」の一つである。三重の濠に囲まれ、平地からは、広大な深い森のように見える。

ここに、権力の象徴ともいえる、巨大な墳墓が造られた理由は、ヤマト王権の時代、海外からの使者が、海の玄関口である堺に船で訪れた際、海からよく見える場所に、巨大古墳を造り、日本の国力を誇示したものとされる。

世界遺産登録が話題になった頃から、仁徳天皇陵をはじめとする古墳群を、空中から眺める「気球運行構想」が掲げられていた。そして、昨年2025年10月、この「おおさか堺バルーン」の運行が開始された。世界に類を見ない、「前方後円墳の全形」を直に見たいと、御陵通りを隔てて、仁徳天皇陵に隣接する広い大仙公園の中ほどにある乗り場へ赴いた。

しかし、「バルーンの予約も取り、行ったが、乗れなかった」というケースも多いらしい。理由は、その運行（中止）条件の厳格さ。風速は常に測定されていて、「風速8m/s以上（地上30m地点）、雨天や霧 etc. は、運休」。その割合は、何と4割とか！ お天気次第、運次第、1便につき、十数人程度と同乗者（定員maxは30名）の雨男・風女（？）…かなりスリリングである。わたしが搭乗した日は快晴で、午前は支障なかったが、午後は風が出て、運休になったとのこと。

直径20m以上あると思われる白い巨大な「係留型ヘリウムガス気球」は、4分かけてゆっくりと上り、3分程留まり、また4分かけて地上に戻る。ゴンドラには、乗客を囲う柵や粗いネットはあるものの怖いのでは…と心配したが、全く穏やかであった。気球自体は、垂直方向の移動のみで、横の移動はないので、高度100mに達すると、ゴンドラの幅1mもない輪状の通路を、乗客が1列になって、ぐるりと歩いて一周し、「仁徳天皇陵」はじめ、一帯の大小様々な古墳をバックに写真を撮ったり、360°の景色、世界遺産の眺望を楽しむ。

「空の特等席から、世界遺産を一望！」と謳う、その眺めは——「地上100m」からでは、近くの「履中天皇陵」「いたすけ古墳」や他の小さな古墳は、その姿、アウトラインもわかるが、印刷物や模型等で見る、あの大きな特徴ある「仁徳天皇陵」の姿は、やや斜めにしか見えず、少し残念であった。真上からはっきりと見たいなら、大阪・八尾空港から出ているセスナ機やヘリコプターによる遊覧飛行か。

北方向のずっと向こうに、あべのハルカス（高さ300m・展望台は、288m）が小さく見える。この近くに、

ハルカス級のビルや、あるいは、東京スカイツリー（634m・展望台は 450m）や東京タワー（333m・同 250m）があれば、また違った景色、すばらしい眺めであろう。

そういえば、関西には、あまり高い建物はないなあ…と、少し調べてみると、現在、日本で最も高い建物は、東京の「麻布台ヒルズ 森 JP タワー」の 325m、次いで「あべのハルカス」、3 位は、「横浜ランドマークタワー」で 296m。さらに、東京駅に隣接して、現在、三菱地所が建設中のビル「TOKYO TORCH」（2028 年完成予定・61 階）は、何と 390m とのこと。しかし、世界は…？ と見ると、桁外れのスケールに驚く。

現在、世界で最も超高層のビルは、UAE・ドバイの「ブルシュ・ハリファ」で、829m（163 階）、次いで、マレーシアの「ムルデカ 118」の 679m（118 階）。そして、現在、建設中で、2028 年に完成予定のサウジアラビアのハイパービルディング（1,000m 超・超々高層ビル）、「ジッダ・タワー」は、1,008m！（157 階・フォーシーズンホテル等が入る。当初の計画は、1,600m だった。）

「椰子の新芽をイメージしたデザイン」というが、まるで、地球儀に虫ピンが刺さったように見えるのではないか…。

もしも機会があるなら、そのハイパーな高さを体感してみたくないこともないが(?)、科学や建築技術の進歩、人間の尽きることのない願望とそれを可能にする知力に唖然とするとともに、いつか、それが、神の怒りにふれたというバベルの塔にならなければ…とも思う。

（研究委員 谷 奈々）